

「楽しい老い」とは？ 「穏やかな終末」とは？

「理想的な地域医療」を描いた、笑い涙があふれる あったか〜い映画です！

群馬県の在宅医師・萬田緑平先生の診療所は、いつも笑い声が絶えません。

ジョークが好きな萬田先生の信条は、患者さん本人の気持ちを最優先する「患者ファースト」。

家族旅行を楽しんだり、愛するペットとともに暮らす。趣味のガーデニング、ゴルフ、お酒を満喫する。

本作で描かれるのは、最期まで自分らしく生きる、その輝き。前向きに歩きはじめる家族の姿です。

中学生、高校生など若い方にも、ぜひ観てほしい「生きる希望」を描いた文科省選定映画です。

がんを抱えながら亡くなった樹木希林さんの言葉が、明るく生き続ける極意を教えてくださいます。

監督は、『夢みる小学校』のオオタヴィン。ナレーションは、佐藤浩市と室井滋。エンディングテーマはウルフルズの名曲です！

“希望あふれる地域医療”を描いたハートフル・ドキュメンタリー映画です♪



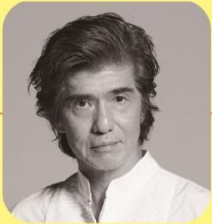
樹木 希林

「在宅緩和ケア」で、
自宅で自分らしい生活を送る
がん患者のみなさん

ゴルフやお酒も
OKです！

孫や子どもと
我が家で過ごしたい！

愛するペットと
一緒にいたい！



本作ナレーター
佐藤 浩市

緩和ケアを受けることで、がんの患者さんたちが
お酒を飲んだり、ゴルフをしながら自分の人生を満喫できる、
素晴らしいなと思いましたね。
がんで悩む現代人には勇気が出る映画です。



本作ナレーター
室井 滋

緩和ケアの実態、私もこの映画で初めて知りました。
がんになっても痛くないなんてすごいですよね。
患者さんたちの元気な笑顔にびっくりしました。
見ると不思議な希望が湧いてくる映画です。

ハッピー☆エンドは、こんな映画です！



観客は大声で笑う、自分や自分の家族と重ねて笑う、うなずきながら泣く。
画面に映るのは私、私の夫、私の妻、私の子ども、私の孫たちなんだ。
緩和ケアは生ききる人の生きるを支え抜くケアだと伝わる。
この映画を観た人は「しっかり生きよう」と元気になるのだ。

高口 光子 (理学療法士、介護福祉士)

予告編
をご覧ください



映画「ハッピー☆エンド」上映会

令和8年度 在宅医療・介護住民向け講演会
主催：新発田市、しばた地域医療介護連携センター

人生の最終章を自分らしく生きたい。
だれもがそう願っても、命のことをつ
い医者や誰かにゆだねてしまう。
生きることは自分ごと。4つの実話
が好きな物、好きな人、好きな時間、
自分の「好き」を大切に、「自分ら
しく生ききる」を気づかせてもらえる
泣き笑いのドキュメンタリーです。

<お申込み方法> 団体での参加をご希望の場合は、
事前にお問い合わせください。
以下のいずれの方法でお申込みください。

受付期間：7月8日(水)～7月22日(水)

- ①右記のQRコードを読み取って申込
- ②電話 しばた地域医療介護連携センター

0254-20-8577

参加無料

定員：500名

